



平成 28 年 10 月 20 日

各 位

会 社 名 株式会社 早稲田アカデミー  
 代 表 者 名 代表取締役社長 古田 信也  
 (コード番号 4 7 1 8 東証第一部)  
 問 合 せ 先 専務取締役管理本部長 河野 陽子  
 (TEL 03-3590-4011)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 5 月 9 日に公表しました平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

## 1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,205	百万円 220	百万円 219	百万円 119	円 銭 14 34
今回修正予想 (B)	10,090	468	469	296	35 52
増 減 額 (B-A)	△114	248	249	176	—
増 減 率 (%)	△1.1	112.9	113.6	147.6	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	9,881	508	504	286	34 45

## 2. 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 21,012	百万円 959	百万円 956	百万円 587	円 銭 70 48
今回修正予想 (B)	20,749	1,070	1,072	668	80 26
増 減 額 (B-A)	△262	110	116	81	—
増 減 率 (%)	△1.3	11.6	12.1	13.9	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	20,190	1,018	1,017	584	70 24

## 3. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 個別業績予想数値の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 9,837	百万円 155	百万円 69	円 銭 8 38
今回修正予想 (B)	9,710	386	222	26 67
増 減 額 (B-A)	△126	231	152	—
増 減 率 (%)	△1.3	149.4	218.1	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	9,611	425	217	26 22

4. 平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,323	867	523	62 86
今回修正予想 (B)	20,049	965	581	69 75
増 減 額 (B-A)	△273	98	57	—
増 減 率 (%)	△1.3	11.3	11.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	19,592	919	500	60 14

5. 修正の理由

(1) 第 2 四半期連結累計期間業績予想の修正理由

当第 2 四半期連結累計期間の業績予想につきましては、収益の基礎となる塾生数（期中平均）が計画比 99.7%程度で推移したことにより、売上高は、当初計画を若干下回るものの、概ね予想の範囲で着地する見通しです。

他方、費用面では、来年度に予定している新人事制度への移行と次期基幹システムの導入を見据えた業務効率改善及び人材の更なる有効活用に向けた施策の推進が、労務費の増加抑制という面でも想定より早く成果が表れたことに加え、教材開発時期の変更や経費削減への取り組みなどにより、人件費、原材料費、水道光熱費・事務消耗品費等を中心に、営業費用は予算を下回る見通しとなりました。以上の結果、利益につきましては、当初予想比で営業利益が 112.9%増、経常利益 113.6%増、親会社株主に帰属する四半期純利益 147.6%増といずれも予想を大きく上回る見込みとなりましたので、業績予想の修正をいたします。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

第 2 四半期連結累計期間の業績見直しを踏まえ、10 月以降の収支計画を見直すとともに、新年度集客に向けた新たな計画を反映した結果、以下のとおり通期の業績予想も修正いたします。

売上高につきましては、非受験生を対象とした授業料割引を含む集客キャンペーンの実施、並びに冬期講習会・正月特訓の運営見直しに伴う料金変更等により、当初予想を 1.3%下回る見通しです。

他方、費用面では、上半期の動向を踏まえた労務費予算の見直し及び教材開発時期の変更を反映したことに加え、来年度以降の塾生数及び合格実績伸長に向け、非受験学年を主なターゲットとする広告宣伝やブランディング広告の追加実施等により広告宣伝費及び販売促進費の増加が見込まれ、利益面では、当初予想に対して営業利益が 11.6%増、経常利益 12.1%増、親会社株主に帰属する当期純利益 13.9%増となる見込みのため、業績予想の修正をいたします。

(3) 第 2 四半期累計期間及び通期の個別業績予想の修正理由

個別業績予想の修正につきましては、上記の連結業績予想と同様の理由により修正を行っております。

(注) 本資料に記載の業績予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。